

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
家政学部	被服学科	夜・通信	10	4	-	14	13	
	食栄養学科	夜・通信			-	14	13	
	建築・デザイン学科	夜・通信			-	14	13	
	児童学科	夜・通信			-	14	13	
文芸学部	文芸学科	夜・通信	10	-	4	14	13	
国際学部	国際学科(2022年度以前入学生)	夜・通信	14	-	-	14	13	
	国際学科(2023年度以降入学生)	夜・通信	14			14	13	
看護学部	看護学科	夜・通信	10	-	3	13	13	
ビジネス学部	ビジネス学科	夜・通信	10	-	4	14	13	
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	夜・通信	14	-	-	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2024nendo/jitsumuka_kyoin.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/greetings/history.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	江戸川大学名誉教授	2022.4.1 ~ 2025.3.31	法人全般にわたる業務の管理・運営
非常勤	共立女子大学名誉教授	2024.4.1 ~ 2027.3.31	法人全般にわたる業務の管理・運営
非常勤	共立女子大学名誉教授	2024.5.28 ~ 2027.3.31	法人全般にわたる業務の管理・運営
非常勤	ロジスティード(株)社外取締役 (公財)産業教育振興中央会会長 有限責任あずさ監査法人公益監査委員会委員	2022.4.1 ~ 2025.3.31	法人全般にわたる業務の管理・運営
非常勤	(社福)三井記念病院長・常務理事 順天堂大学名誉教授	2023.4.1 ~ 2026.3.31	法人全般にわたる業務の管理・運営
非常勤	社会福祉法人向日葵会理事	2023.4.1 ~ 2026.3.31	法人全般にわたる業務の管理・運営
(備考) 桂(結城)由美理事の逝去により5月28日開催の理事会において、大学・短期大学前学長の川久保清氏を選任した。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全授業科目について、シラバスを作成し、公表している。シラバスには、「科目概要」「到達目標」「単位修得目標」「授業形態」「授業方法」「授業の進め方の概要」「各回の授業内容」「事前・事後学修」「成績評価の基準」「評価の方法と配分」「テキスト」「参考文献・参考 Web サイト等」「課題図書」「履修者へのメッセージ」を記載している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>https://kyonet.kyoritsu-wu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)策定時、①試験、②レポート、③(授業内)小テスト、レポート、④平常点(学習意欲、履修態度等)、⑤その他の評価方法を適切に用いて成績評価を行うよう計画をしている。また、成績評価実施時は、当該授業科目の到達目標に照らし、評価基準を以下のように定め、厳正な成績評価を実施している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(成績評価)</th> <th>(素点)</th> <th>(内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S</td> <td>90~100点</td> <td>到達目標を超えたレベルを達成している。</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>80~89点</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70~79点</td> <td>到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60~69点</td> <td>単位修得目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>59点以下</td> <td>単位修得目標を達成できていない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※グレード・ポイント S:4.0、A:3.0、B:2.0、C:1.0、D・X:0.0 ※到達目標:当該授業科目が目指す学修成果のレベル 単位修得目標:当該授業科目で最低限修得すべき学修成果のレベル</p>		(成績評価)	(素点)	(内容)	S	90~100点	到達目標を超えたレベルを達成している。	A	80~89点	到達目標を達成している。	B	70~79点	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している。	C	60~69点	単位修得目標を達成している。	D	59点以下	単位修得目標を達成できていない。
(成績評価)	(素点)	(内容)																	
S	90~100点	到達目標を超えたレベルを達成している。																	
A	80~89点	到達目標を達成している。																	
B	70~79点	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している。																	
C	60~69点	単位修得目標を達成している。																	
D	59点以下	単位修得目標を達成できていない。																	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPAを導入しており、GPA値については学生に公表している。また、GPAの考え方や活用等基本方針についても履修ガイド、ホームページで公表している。成績の分布状況については、GPAの分布状況について、前期・後期各1回把握し、各学部の結果を公表している。把握したGPAに基づき、以下のような対応を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学期GPAが1.4以下となった学生に対しては、本人を呼び出し、アカデミック・アドバイザーによる注意と指導を行う。 ② 学期のGPAが2学期連続1.4以下を、または在学期間のうち3学期分がそれ以下となった学生に対しては、本人および保証人を呼び出し、アカデミック・アドバイザーによる注意と指導を行う。 ③ 学期GPAが3学期連続1.4以下を、または在学期間のうち4学期分がそれ以下となった学生に対しては、学生の状況に応じ、成業の見込みを教授会で審議の上、退学を勧告することがある。 ④ 1年次から2年次の進級については、1年次終了時に1年以上在学し、通算GPAが0.6以上であることを条件とする。 ⑤ GPAが高く、学業が特に優秀と認められる学生に対しては、教授会で審議のうえ、表彰を行うことがある。 <p>GPA算出 (科目の成績評点(GP)×単位数)+…+(科目の成績評点(GP)×単位数)÷登録科目の総単位数(評価D・Xの単位数も含む)</p> <p>【履修ガイド2024:掲載P195・P196】</p>																			
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>kyoritsu-wu_guide_u_2024.pdf</p>																		
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>																			

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、公表している。各学部において、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムチェックを実施し、各授業科目の到達目標を定めている。各授業科目においては、到達目標の達成水準を基準に成績評価を行っている。したがって、各授業科目における成績評価を適切に行うことで、適正な単位の認定が行われ、卒業要件単位を満たすことにより、ディプロマ・ポリシーの要件を満たすことを保証している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	共立女子大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
収支計算書又は損益計算書	ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
財産目録	ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
事業報告書	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/plan/
監事による監査報告(書)	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/kanji/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2024年度 事業計画 対象年度:2024年度)
公表方法:ホームページにて公表(https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/plan/)
中長期計画(名称:第三期中期計画 対象年度:2023年度~2027年度)
公表方法:ホームページにて公表(https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/termplan/)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/hyouka.html
--

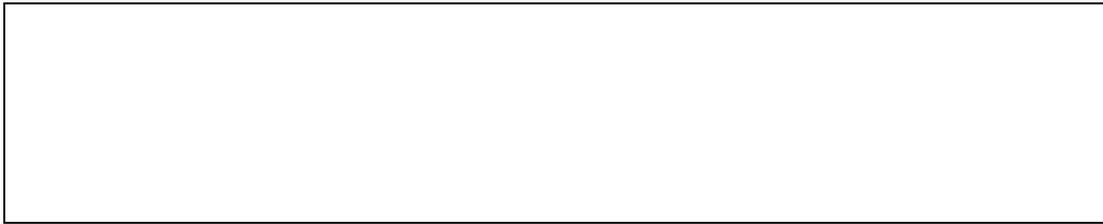
(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/hyouka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 家政学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html)</p> <p>(概要) 家政学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「幅広く深い教養および総合的な判断力を基盤として、生活者の視点から人間生活について広く追及し、現代社会において人々の生活の向上と福祉に貢献する自立した女性を育成する」ことである。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：)</p> <p>(概要) 家政学部は、各学科の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技能の学修を通して、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活者の視点から人間生活について多角的に探究し、家政学の領域において主体的な判断のもとに人々の生活の質の向上と福祉に貢献する実践的総合科学である家政学を多角的にとらえるための幅広い教養を有している。 ●家政学部各学科の各分野において諸課題の解決に必要な専門的な知識・理解を有している。 ●日常生活にかかわる諸問題について、基礎的・専門的な知識を活用して生活者の視点から客観的・総合的に理解し、主体的判断のもと対処できる能力を身に付けている。 ●生活者の視点から日常生活に係る諸問題について、社会の動向をふまえた確に理解し、他者とのコミュニケーションを通して解決する能力を身に付けている。 ●家政学部各学科で学修した知識・技能・判断力を基に生活者として主体的に学び、課題を発見。目標を明確に掲げ他者に寄り添い協働して、解決していく誠実で豊かな人間性を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：)</p> <p>(概要) 家政学部は、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要・適切な図業科目を精選し、順次性ある体系的な教育課程を編成する。その際、科目履修の順次性に基づくカリキュラムの体系的学修を可能にするために、カリキュラム・マップ。カリキュラム・ツリー、ナンバリング、履修系統図を用いる。その上で、家政学部は自然・社会・人文の諸科学の幅広い知識を養うための「教養教育科目」、家政学部の全学科に共通して必要となる、人間生活領域と科学領域の知識を養う「家政学部共通科目」、さらには、それぞれ専攻する被服、食物栄養、児童において、高度な専門知識とそれを活用する力を養うための「学科専門教育科目」の 3 つの科目区分を設けて授業科目を配置、科目履修の順次性を通しカリキュラムの体系的かつ効果的な教育課程を編成する。教育課程の編成及び授業実施にあたっての、教育内容、教育方法、学修成果の評価方針を以下の通り定め、具体的な方針は学科ごとに定める。また、被服学科、食物栄養学科には教職課程を設け、被服学科、食物栄養学科には学芸員課程を設け資格取得に必要な科目を置く。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html)</p>



(概要) 家政学部は、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、高等学校等における学修・経験を通じて、基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付け、自ら課題を発見し、その課題に向き合い探求しようとする意欲ある者を受け入れる。なお、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。このような学生を適正に選抜するために、各学科において多様な選抜方法を適切に実施する。

- 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)
- 高等学校までの履修内容のうち、各学科の専門分野における学修の基盤として必要な基本的な知識・技能を身に付けている。(知識・技能)
- 身近な社会問題を多角的にとらえ、自らの考えを論理的に整理し、他者へ客観的に説明できる思考力・判断力・表現力を有している。(思考力・判断力・表現力)
- 課題を課された際に、主体的に探究し、最後まで取り組もうとする意欲・態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- リーダーシップを発揮し、他者の意見や考え方を理解・尊重し、積極的に他者と協調・協働して社会に貢献したいという意欲・態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 家政学部被服学科
教育研究上の目的 (https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html)
(概要) 家政学部被服学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「被服学を理論と実践の両面から学ぶことにより、高い専門性を有すると共に、伝統に培われた教育理念を踏まえながら知性と情操とをそなえ、新しい時代の流れに即応して広く社会的に活動ができる女性を育成する」ことである。
卒業の認定に関する方針 (https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html)

(概要) 被服学科は、本学科の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の学修を通して、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

(1)被服学を多角的にとらえるための幅広い教養を身につけており、自ら発展的な学修ができる。(客観性・自律性-幅広い教養)

(2)被服に関する体系的な専門と四季を修得し、衣生活における人と自然・社会環境との関係を深く追及し、主体的に考え、自律的に行動する能力を身につけている。(客観性・自律性-専門知識)

(3)生活の質の向上と人類の福祉に貢献するため、被服学の広範な知識と専門的な技能を修得し、修得した技能を主体的判断のもとに応用できる。(客観性・自律性-専門知識)

(4)社会の動向を踏まえ、衣生活における人と自然・社会環境に関する課題を発見し、被服学の専門的な知識・技能を活用して、諸課題を分析し、解決できる能力を身につけている。(課題発見・解決力)

(5)衣生活における人と自然・社会環境に関する目標を掲げて共有したうえで、リーダーシップを発揮し、他者とともに生活の質の向上に貢献できる。(リーダーシップ)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.htm)

(概要) 被服学科専門教育科目は、被服学に関する広範な知識・技能を修得するために各科目の教育内容に応じて講義、実験・実習、演習系科目を配置し、「被服材料学」「被服管理学」「染織文化史」「和服文化論」「被服造形学」「被服デザインⅠ」「アパレル消費科学」を必修科目とする。ディプロマ・ポリシーに示した能力を身につけるため、少人数制による教員と学生間の双方向授業、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを重視した教育を行う。

入学者の受入れに関する方針(公表方法: https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html)

(概要)

被服学科は、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、本学が教育の基軸にする「リーダーシップ」教育と「実学」教育を積極的に需要する資質と能力を油脂、高等学校等における学修・経験を通じて、以下に示す基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を備え、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた人物を受け入れる。このような学生を適せ宇井に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)

(2) 高等学校卒業までの履修内容のうち、被服学科における学修の基礎として必要な基礎的な知識・技能を身に付けている。特に「国語」と「英語」を通して聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎を身につけている。(知識・技能)

(3) 他者の意見や考え方を尊重し、自らの考えを整理・表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している。(思考力・判断力・表現力)

(4) 困難な課題であっても、主体性を持って最後まで取り組む態度を有し、将来的に被服に関係する設計、生産流通や教育・研究に従事しようという意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(5) 他者と協議・協働してリーダーシップを発揮し、何事にも積極的に取り組む意欲を有している。また、文科的な背景の異なる人々と外国語で積極的にコミュニケーションをとる意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 家政学部食物栄養学科 食物学専攻

教 育 研 究 上 の 目 的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/syoku/purpose/>)

(概要)

家政学部食物栄養学科食物学専攻において、家政学部の人材養成目的に基づき、「本専攻で学ぶ全ての学生に対して社会に通用する広い教養を十分に涵養せしめたうえで、現代の多様な食生活の中にあっても多くの人々がより一層の健康な社会生活が営めることをめざし、食の安全性はもとより、栄養の素材としての食物、並びに食物と健康に関する幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成する」ことを人材養成目的とする。

卒業の認定に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/syoku/purpose/>)

(概要)

食物栄養学科食物学専攻は、建学の精神「女性の自立と自活」を踏まえて展開される所定の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の学修を通して、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

- (1) 食物と栄養を多角的にとらえるための幅広い栄養を有している。(客観性・自律性-幅広い教養)
- (2) 食物と栄養にかかわる広範な専門知識と技能を有している。(客観性・自律性-専門知識)
- (3) 食物と栄養にかかわる諸問題について、専門知識に基づき総合的に理解し、主体的に判断する能力を身に付けている。(客観性・自律性-主体的判断力)
- (4) 食物と栄養にかかわる課題を自ら発見し、専門知識と技能を用いて解決する能力を身に付けている(課題発見・解決力)
- (5) 他者の意見を尊重し、他者と協働しながらリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/syoku/purpose/>)

(概要)

●専門領域を学修するための基礎として、化学や生物学などに関する講義科目を配置する。さらに学修した知識を検証し、体験的にまなぶための実験科目を配置する。

●食品開発や食生活の改善と向上に必要な専門知識と技能を養うために「食品科学領域」「健康科学・栄養学領域」「調理学領域」「食文化・食産業領域」の4つの専門領域を設け、各領域に応じた講義・演習・実験科目を、階梯性を踏まえて配置する。

●思考力・判断力・表現力を養うために、食物と栄養に関する課題について、学修した専門知識と技能を用いて研究・調査を行い、その結果を考察して論述・発表するための「卒業論文」と「卒業演習」を配置する。

入学者の受入れに関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/syoku/purpose/>)

(概要)

食物栄養学科食物学専攻は、建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にすえる「リーダーシップ」教育と「実学」教育を理解し、積極的に受容する資質・能力を有し、以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。なお、このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)
- (2) 高等学校卒業までの履修内容のうち、食物学専攻の学修の基盤となる化学と生物学の基礎的な知識と技能を修得している。(知識・技能)
- (3) 食物と栄養に関する社会問題を多角的にとらえ、自分の考えを論理的に整理し客観的に他者へ説明する意欲を有している。(思考力・判断力・表現力)
- (4) 課題に対して主体的に探究を行い、最後まで取り組む意欲と姿勢を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- (5) 他者の意見を尊重しながら他者と協働し、リーダーシップを発揮して社会に貢献する意欲と姿勢を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 家政学部食物栄養学科 管理栄養士専攻

教育研究上の目的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/>)

(概要)

家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻の人材養成目的は、管理栄養士養成施設指定基準を遵守したうえで、家政学部の人材養成目的に基づき、「ライフステージに応じた栄養指導や傷病者の食事療法を中心とする栄養指導能力を培い、健康づくりの専門職として医療機関、社会福祉施設、学校教育現場などさまざまな場で活躍できる幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/>)

(概要)

食物栄養学科管理栄養士専攻は、建学の精神「女性の自立と自活」を踏まえて展開される所定の課程を修め、124 単位以上の単位取得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技能の学修を通じて、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

- (1)健康と栄養を多角的にとらえるための幅広い教養を有している(客観性・自律性-幅広い教養)
- (2)健康と栄養、特に栄養管理と栄養指導にかかわる広範な専門知識と技能を有している。(客観性・自律性-専門知識)
- (3)健康と栄養にかかわる諸問題について、専門知識に基づき総合的に理解し、主体的に判断する能力を身に付けている。(客観性・自律性-主体的判断力)
- (4)健康と栄養にかかわる課題を自ら発見し、専門知識と技能を用いて解決する能力を身に付けている。(客観性・自律性-主体的判断力)
- (5)他者の意見を尊重し、他者と協働しながらリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/>)

(概要)

●専門分野を学修するための基礎として、化学や生物学などに関する講義科目を配置する。さらに、学修した知識を検証し、体験的に学ぶための実験科目を配置する。

●管理栄養士に必要とされる専門的能力を養うため、専門基礎分野として「社会・環境と健康」「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を専門分野として「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆衛生学」「給食経営管理論」を設置し、各分野に応じた講義・実験・実習科目を、階梯性を踏まえて設置する。また、実践活動の場における専門知識および技術の統合を図るために「臨地実習」を配置する。さらに、各専門分野を横断した総合的な能力を養うために「総合演習」を最終学年に配置する。

●思考力・判断力・表現力を養うために、健康と栄養に関する課題について、学修した専門知識と技能を用いて研究・調査を行い、その結果を考察して論述・発表するための「卒業論文」「卒業演習」を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/syokumotu/>)

(概要)

食物栄養学科管理栄養士専攻は、建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にすえる「リーダーシップ」教育と「実学」教育を理解し、積極的に受容する資質・能力を有し、以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。なお、このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)

(2) 高等学校までの履修内容のうち、管理栄養士専攻の学修の基盤となる化学と生物学の基礎的な知識と技能を修得している。(知識・技能)

(3) 健康と栄養に関する社会問題を多角的にとらえ、自らの考えを論理的に整理し、客観的に他者へ説明する意欲と姿勢を有している。(思考力・判断力・表現力)

(4) 課題に対して主体的に探究を行い、最後まで取り組む意欲と姿勢を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(5) 他者の意見を尊重しながら他者と協働し、リーダーシップを発揮して社会に貢献する意欲と姿勢を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 家政学部 建築・デザイン学科

教育研究上の目的

(http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/)

(概要)

家政学部建築・デザイン学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「人が生きていくために必要な生活の場を構成している『空間』や『モノ』などを総合的にとらえ、学び、安全・安心・快適な生活を実現するために『建築』と『デザイン』から提案できる専門的知識・実践力を身につけた女性を育成する」ことである

卒業の認定に関する方針

(http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/)

(概要)

建築・デザイン学科は、本学科の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

(1) 人が生きていくために必要な生活の場を構成している『空間』や『モノ』『伝達』などを総合的に捉えることができる、知識・能力を身に付けている。(知識・理解)

(2) 生活の場を建築やインテリアの分野で設計・施工・管理する技術を身に付けている。(技能)

(3) プロダクトデザインやグラフィックデザインの分野で設計・制作・ディレクションできる技術を身に付けている。(技能)

(4) 『空間』や『モノ』『伝達』などを総合的に捉え、適確に分析・評価を行い、安全・安心・快適な生活を実現するために『建築』と『デザイン』の分野から創造し提案できる専門的知識・実践力を身に付けている。(思考・判断・表現)

(5) 変化する生活の場の状況に対して、常に意欲的に取り組み、そのあり方を表現し続ける力を身に付けている。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/)

(概要)

●専門分野をより深く理解し学ぶために、「建築」コースと「デザイン」コースを設ける。また、2年次から人材養成目的をより明確にし、目標達成に向けて学修意欲を喚起するよう、建築コースに「建築分野」と「インテリア分野」を、デザインコースに「プロダクト分野」と「グラフィック分野」を設け、体系的に授業科目を配置する

●生活の中における「ひと」「もの」「空間」「伝達」の基本的な事項を理解するとともに、建築とデザインのふたつの領域に共通して必要となる知識・技能を修得するための科目を、「学科共通専門科目」として配置する。

●建築領域における建築・インテリアの知識およびデザイン領域におけるプロダクトデザイン・グラフィックデザインの知識を修得するための科目を、「コース別講義科目」として配置する。
●「コース別講義科目」において学んだ個別の知識を、テーマに沿って総合化し生活に還元するとともに、数値としての知識を五感で感じとったうえで理解分析するための科目を、「コース別演習実験科目」として配置する。

●「コース別演習実験科目」において、テーマに沿って情報収集力・情報分析力・課題発見力・構想力を総合的に駆使して、建築・インテリア・プロダクト・グラフィックのデザインを提案するための科目を、分野別の基幹となる演習科目として、履修順序を踏まえて段階的に配置する。
●知識を学ぶ「講義系科目」、具体的にもものに触れて手や身体で学ぶ「実技系科目」、理論や原理を検証し体感的に学ぶ「実験系科目」、講義・実技・実験で学んだ知識をテーマに沿って総合化する「演習系科目」を体系的に配置する。

学部等名 家政学部児童学科

教育研究上の目的

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>)

(概要)

家政学部児童学科の人材養成目的は、家政学部の人材養成目的に基づき、「関係的存在である児童について、主として乳幼児期・児童期を通して児童の健全な発達および自立支援、さらに児童をとりまく人的、物的環境への働きかけのために必要な専門的知識・実践力を身につけた女性を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>)

(概要)

児童学科は、建学の精神「女性の自立と自活」を踏まえて展開される所定の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の学修を通して、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

(1)生活者の視点から人間生活について多角的に広く追及し、家政学の領域において主体的に判断のもとに人々の生活の向上と福祉に貢献する幅広い教養を有している。(客観性・自律性-幅広い教養)

(2)保育領域・教科に関する専門的知識を修得し、保育食・教職の役割と責任について理解している。(客観性・自律性-専門知識)

(3)保育現場・学校現場で生じている課題やニーズに対して適切な対応方法を主体的に考え、他者に説明することができる。(客観性・自律性-主体的判断力)

(4)子どもの発達に応じた保育・授業の構成や環境・教材・教具の工夫ができ、個に応じた支援・指導を遂行することができる。(課題発見・解決力)

(5)自己の保育・教育実践を振り返り、自己の学修課題を明確化し実践と理論を結びつけながら自らの実践の向上をめざすことができる。子どもを尊重する態度や保育職・教職に対する使命感と責任感をもって、他者と協働しながら適切に行動ができる。(リーダーシップ)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>)

(概要)

児童学を包括的にとらえるために共通して必要となる知識・技能を修得するための基礎となる科目から応用力を身につける発展科目まで階梯性のあるカリキュラムを構成している。専門科目は、児童の発達と生活を核とした幅広い専門知識と技術を体系的に学ぶことができるカリキュラムとして 4 つのカリキュラムの柱「教育と保育」「発達と臨床」「生活と文化」「福祉と共生」と実践力を養う「フィールドワーク」から構成している。各構成の概要は次の通りである。

- 幼児教育・保育と小学校教育の基本理念、目標、方法を学ぶ。時代の変化とともに多様化する子どもの教育・保育ニーズを見通し、子どもの発達に応じた教育・保育者のかかわり方、環境設定についての専門知識と実践力を身につける。
- 生涯発達を見通して、乳幼児期および児童期の発達の「しくみ」や「みちすじ」を、子どもの遊びや表現活動などの具体的な事象とともに学ぶ。また、子ども・家族への発達相談や子育て支援の方法体系的に学び、発達臨床技法を身につけた実践者をめざす。
- 子どもの生活の幅広い具体的な活動から、子どもをとりまく「自己」と「人」と「もの」とのかかわりを理論的に学び、生活に組み込まれたている遊び、食生活、健康、表現、文化の本質にせまる。
- 文化や生活・発達ニーズの異なる人々の多様性を認め合う人間観を養い、子ども・家庭・地域が「共に育つ・育てる・育ち合う」社会のあり方と教育・保育の方法を学ぶ。
- 児童学基礎演習教育・保育実習保育・子育て支援実践演習保育・教育実践演習(初等)など、1 年次から 4 年次までそれぞれの学びの段階で体験的学習ができる科目を設け、現場体験を通して、教養、保育の実践力を育む。これらの科目では、学生自らが学ぶ姿勢や課題を分析・検討する力を養うとともに、少人数でのグループ討論、発表を通してプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力も身につける。

入学者の受入れに関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>)

(概要)

児童学科は、建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にすえる「リーダーシップ」教育と「実学」教育を理解し、積極的に受容する資質・能力を有し、以下に揚げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。なお、このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)

(2) 高等学校卒業までの履修内容のうち、体育、音楽、造形など入学後の修学に必要な技能を有している。また、基礎的なコミュニケーション能力、基礎的な科学的思考力、社会、生活、文化を理解するための基礎的な知識・技能を身に付けている。(知識・技能)

(3) 身近な社会問題について、これまで身に付けた知識・技能を基に論理的に考え、他者の意見や考え方を尊重しつつ他者への客観的に説明するための思考力・判断力・表現力を有している。(思考力・判断力・表現力)

(4) 課題を課された際に、主体的に探究し、最後まで取り組むことができる態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(5) リーダーシップを発揮し、他者と協調・協働して社会に貢献したいという目的意識・態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 文芸学部文芸学科

教育研究上の目的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/purpose/>)

(概要)

文芸学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「文学と芸術の世界をさまざまな視点から広く深くとらえることを通じて、文化全般にわたる広い視野と教養をそなえた豊かな人間性を養うことであり、また実社会において、自立した個人として、他者と協調しつつ、主体的に社会の発展に貢献しうる女性を育成する」ことである

卒業の認定に関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/purpose/>)

(概要)

文芸学科は、建学の精神「女性の自立と自活」を踏まえて展開される所定の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の楽手を通して、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

- (1) 固定観念にとらわれず、対象を多角的にとらえるための幅広い教養を身につけている。
- (2) 生涯にわたって主体的に学び続けるための正確な言語運用能力と情報スキルを身につけている。
- (3) 文学・芸術とメディア及び文化に関する専門的知識を身に付けている。
- (4) 他者のありようを想像し、物事の本質を見通すための知識・技能を身につけている。
- (5) 対象を的確に分析する力を身につけている。
- (6) 課題を発見・解決するための論理的思考力を身につけている。
- (7) 社会の諸課題について理解し、その解決に衰退的に係る能力と態度を身につけている。
- (8) 他者と協議し、友愛の理念に立って市民社会の発展に寄与する能力と態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/purpose/>)

(概要)

●専門基礎、専門分野I・専門分野IIと発展的な科目区分を行い、1年次から4年次にかけて、各分野に講義科目、演習科目、実習科目を体系的、履修順序を踏まえて配置する。

●1年次には、学問領域の専門性に触れるとともに、2年次の領域選択を踏まえた知識・技能等を獲得するため、専門基礎分野科目の必修科目として、「文芸入門A～D」を配置する。

●2年次より、自分の興味の在り方に基づき、以下の4つの領域から1つを選択させる。領域には、専門に関する学びを深めるための基礎的な知識や技能を体系的に学ぶための科目を配置するが、1学部1学科制の特徴をふまえ、選択した領域とは別の領域に配置された科目も幅広く学修させる。

言語・文学領域

芸術領域

文化領域

メディア領域

●3年次より、自分の興味の在り方と4年次に取り組む卒業論文・卒業制作のテーマおよび卒業後の進路を考慮して、以下の7つの専修から1つを選択させる。専修には、専門に関する学びを深めるための発展的な知識や技術を体系的に学ぶための科目を配置するが、1学部1学科制の特長をふまえ、選択した専修とは別の専修に配置された科目も幅広く学修させる。

言語・文学領域日本語・日本文学専修

言語・文学領域英語・英語圏文学専修

言語・文学領域フランス語・フランス文学専修

芸術領域劇芸術専修

芸術領域美術史専修)

文化領域文化専修

メディア領域文芸メディア専修

●専門的な知識・技能を活用し、論理的、客観的に考察することや、他者の意見を理解し、自己の意見を的確に表現すること、さらに他者との協働の中で適切にリーダーシップが発揮できるように、PBL(Project Based Learning/Problem Based Learning)の教育方法を用いた通年2単位の演習を、2年次・3年次の選択必修科目として設置する。

●卒業年次のアセスメント科目として、専門教育科目を中心とする教育内容を統合・深化させ、専門性を活用する力を身につけるために「卒業論文・卒業制作」および「卒業論文・卒業制作ゼミナール」を必修とする。

入学者の受入れに関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/purpose/>)

(概要)

文芸学科は、建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にすえる「リーダーシップ」教育と「実学」教育を理解し、積極的に受容する資質・能力を有し、以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

(1)高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)

(2)高等学校卒業までの履修内容のうち、文芸学部の学修に必要な基礎的な知識・技能(特に「国語総合」と「外国語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎的な知識・技能)を有している。(知識・技能)

(3)高等学校卒業までの学修内容のうち、文芸学部の学修に必要な基礎的な知識(特に「地歴歴史」を通じて、各地域の歴史・生活・文化を理解するために必要な基礎的な知識)を有している。(知識・技能)

(4)物事を論理的にとらえ、自分の考えを的確に表現するうえで基礎となる思考力・判断力・表現力を有している。(思考力・判断力・表現力)

(5)課題に対し主体性を持って最後まで取り組む意欲・態度を有している。あ(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(6)文芸学部の学修内容に関心を持ち、リーダーシップを発揮し、他者に寄り添い、協働して市民社会の発展に貢献しようという意欲・態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 国際学部国際学科

教育研究上の目的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/purpose/>)

(概要)

国際学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「国際的な政治・経済・社会の仕組みや国際文化について理解し、国際文化交流・社会活動の方法を身につけ、比較の視点や異文化への豊かな感性をそなえて、国際的な関係を有する内外の場で活躍できる人材を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/purpose/>)

(概要)

国際学科は、建学の精神「女性の自立と自活」を踏まえて展開される所定の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の学修を通して、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

- (1)世界のつながりや諸課題を多角的にとらえるための幅広い教養を身につけている。
- (2)自他の文化についての理解を深め、特徴を把握するとともに、その価値を認め、適切な形で尊重することができる。
- (3)社会に対して開かれた関心と態度を身につけ、その多様性を国際的な観点から理解し、また共感することができる。
- (4)異文化コミュニケーションを可能にし、国際社会で活躍するための実践的な言語運用能力を身につけている。
- (5)社会人・市民として必要とされる現代社会の基本的な制度や仕組みを理解し、現代社会の現状を把握できる。
- (6)国際的な問題に関する新たな課題を自ら見つけ出し、批判的に分析、言語化し、解決を提案、論理的に説明する能力を身につけている。
- (7)国際社会で主体的に活動するための目標を明確に揚げ共有した上で、率先して行動し、多様な国際社会構成員との相互支援関係を作ること、目標達成に近づいていくことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/purpose/>)

(概要)

●ディプロマ・ポリシーに定める資質・野力を育成するために、以下の4つの科目区分において1年次から4年次にかけて講義科目、演習科目を体系的、順次性を踏まえて配置する。

●国際学部では言語運用能力の向上のために専修外国語10単位、および選択外国語4単位の合計14単位を必修として設定している。それぞれの外国語を順次的かつ体系的に学修し、4技能をバランスよく修得するため、以下の段階を設定し、科目を配置する。

(1)入門・基礎(1年次)においては、専修外国語、選択外国語として提供されている言語に関して、中級(英語)、初級(初修外国語)科目を配置し、異文化やグローバル世界に主体的にかかわるために必要な技能を身につけるための基盤となる科目を配慮する。

(2)中級・基幹(2年次)においては、入門・基礎段階において獲得した技能をさらに高めるために、専修外国語、選択外国語の言語に関して、上級(英語)、中級(初修外国語)科目を配置する。

(3)上級・発展(3年次)においては、専修外国語に関してより高度な言語運用能力を習得するために(最)上級科目を配置する。

●国際学部における学びのあり方やその多様性について基礎となる知識を身につけ、理解を深めるための科目を配置する。その前提として「国際学入門」を全学生必修として1年次前期に配置する。そのうえで、「エリア」「コミュニケーション」「グローバル」の各コース分野を学ぶ目的や学問体系を理解するため、それぞれのコース分野に基幹的な導入科目を配置する。これらの科目の履修によって、コース分野を主体的に選択することが促される一方、学際性を担保するために、これらのすべてのコース分野の専門基礎科目について一定の選択必修の単位を設定し、多角的な視点の必要性を認識させる。

●「専門教育科目」で得た知識・理解をふまえて、「エリア」「コミュニケーション」「グローバル」のコース分野について、より専門性を高い科目を配置し、選択したコース分野には選択必修を設定することで、知識と理解を深めるものとする。また、2年次においては、前後期にそれぞれ「国際基礎演習Ⅰ、Ⅱ」を必修として配置し、身につけた知識・理解・技能を能動的に活用し、一人ひとりの問題意識・関心の形成を促すこととする。

●「エリア」「コミュニケーション」「グローバル」の3つの分野に、学びを深めていくための専門科目を配置する。専門発展科目では、学生の学修思考・関心・意欲に応じて、当該分野の科目を中心に履修しつつ適切な履修指導のもと、他の分野の科目も履修することで、包括的な視点に基づく分野横断的な能力と選択した分野における深い知識や応用力を身に付ける。また、これまで学修した知識・技能等を活かしつつ、適切な指導により、自ら設定したテーマを研究したり、グループディスカッション等を通じて協働力を身に付けたりするための「国際専門演習」を配置する。さらに4年間の集大成として研究成果を論文にまとめ、成果発表までを行う「卒業研究」を配置する。そのため、専門発展科目のうち、「国際専門演習」「国際卒研演習」「卒業研究」は必修科目とする。なお、GSEプログラムにおいては、ゼミナール担当教員の指導の下、卒業論文は英語で執筆するものとする。

入学者の受入れに関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/purpose/>)

(概要)

国際学科は、建学の精選である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にすえる「リーダーシップ」教育と「実学」教育を背局的に受容する資質・能力を有し、以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。このような学生を適正に選抜するために、各学科において多様な選抜方法を適切に実施する。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)

(2) 国際学部で学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識があり、入学後の学修に必要な技能を有している。とくに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎技能を日本語、外国語において身に付けており、また各地域の歴史や文化、社会の仕組みについて、その特性を理解し、数量的な分析を行うための基礎知識を身に付けている。(知識・技能)

(3) 国際学部での学びを通して、異文化への豊かな感性や多様な価値観、国際交流の場で求められる確かな表現力や判断力を身に付けようとする意欲を有している。(思考力・判断力・表現力)

(4) 国際的な政治・経済・社会の仕組みや諸地域の文化やその交流・関係に感心を持っている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(5) グローバルな課題の解決のために、リーダーシップを発揮して異文化を背景にもつ他者との協働作業に積極的に関わり、その経験を将来のキャリアや社会活動に活かそうとする意欲がある。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

学部等名 看護学部看護学科

教育研究上の目的 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kango/purpose/>)

(概要)

看護学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき「幅広い教養を基盤とした豊かな人間性を養い、看護専門職として必要とされる知識・技術・態度に基づいた看護実践能力を修得するとともに、将来にわたり看護の向上に資するための研鑽能力を養い、人々の健康の保持増進に寄与することにより、自ら自己の将来を切り開き、自律的に社会に参画・貢献しうる女性を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kango/purpose/>)

(概要)

看護学科では、建学の精神「女性の自立と自活」を踏まえて展開される所定の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の学修を通して以下に示す資質。能力を備えた人物に学位を授与する。

- (1) 看護の対象となる人々と社会を多角的にとらえるための幅広い教養を身につけている。
- (2) 科学的根拠に基づき、看護を適切かつ安全に実践するための専門的知識を身につけている。
- (3) 看護の対象となる人々を生活者としてとらえ、生活とその基盤となる社会を理解するための専門知識を身につけている。
- (4) 人々の尊厳と権利を擁護する姿勢、並びに高い倫理観に基づき、自律的な判断のもとこうどうすることができる。
- (5) 看護の対象となる人々の健康課題に応じて、ケアを行うためのコミュニケーション能力と看護技術を身につけている。
- (6) 地域包括ケアシステムの中で、多職種・多機関と連携・協働して支援を行う上で、看護職が果たすべき役割を理解している。
- (7) 看護の対象となる人々の発達段階、心身の状態、生活状況から健康課題をアセスメントし、看護ケアの計画立案・実施・評価を行うことができる。
- (8) 看護の対象となる人々を取り巻く環境(家族、地域の特性、社会資源)を把握し、健康課題に応じて、多職種・多機関と連携・協働して社会資源を活用・開発するための計画を立案することができる。
- (9) 社会的ニーズと自身の関心に基づき主体的に学修し、課題を明確化するための基礎的研究能力と、自己研鑽して社会への貢献を目指す態度を身につけている。
- (10) 看護の対象となる人々や保健医療福祉チームメンバーと信頼関係を構築し、目標設定および解決のために、他者の考えを理解し、自身考えを述べることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kango/purpose/>)

(概要)

●ケア対象者について理解し、その対象に応じた健康課題を適切に査定し、健康生活を支えるために必要な基礎から応用までの援助の理論と実践力、及び看護実践のための専門性を発展させる能力を育成することを目的とし、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」、「統合科目」に区分する。それぞれの科目区分及び科目構成は以下の通りである。

●看護学を学修する上での基礎・基盤となる知識・能力・態度を養成する。具体的には、看護の対象である人間や、健康生活を取り巻く社会環境などについて理解することを目標年、「人体の構造と機能」、「疾病と治療」、「看護の基盤」、「社会と医療」に区分して1・2年次を中心に配当する。

●専門基幹科目は、専門的職業人として必要される看護学分野の専門的な知識と技術、態度の修得を目標とする。特に、「援助演習」「実習」科目では、グループワークを活用し、チームワークに求められる態度とリーダーシップを養成する

●専門展開科目は、学生が卒業後看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、各専門領域で学んだ知識・技術・態度を基盤として、看護職としての専門性を発展させ、看護実践能力を開発する能力を育成することを目標とし、各専門領域の枠を超えて今後の医療・看護の現場における課題解決のために必要な知識・能力を養う科目を選択科目として配置する。

・「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」の学修を総合する科目を配置する。「統合ケア演習」「看護学総合演習」「公衆衛生看護学実習」においては、これまでの学修を統合して、多職種・多機関の連携・協働について実践的に理解させるとともに、医療チームの一として看護を実践するためのマネジメント能力等を養成する。「卒業研究」においては、これまでの学修内容の中から研究課題を設定し、研究プロセスに則って論文を作成し発表する。

入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 (<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kango/purpose/>)

(概要)

看護学科は、建学の精神である「女性の自立」に基づき、本学が教育の基軸にすえる「リーダーシップ」教育と「実学」教育を積極的に受容する資質・能力を有し、以下に揚げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。多様な選抜方法を適切に実施する。

- (1)看護学部で学修する基盤として、高等学校相当の知識を幅広く修得している。
- (2)看護学部で学修する基盤として、高等学校「国語」と「英語」を通じて、コミュニケーションスキルの基礎となる読む・書く力を身につけている。
- (3)専門科目を学修する基盤として、高等学校理科における「生物基礎・生物」「化学基礎・化学」分野の知識、並びに数量的スキルの基礎を身につけている。
- (4)他者の意見や考え方を尊重し、自らの考えを整理・表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している。
- (5)看護専門職として社会に貢献する強い意志を持ち、自己の資質向上のための課題に、主体性を持って最後まで取り組む態度を有している。
- (6)リーダーシップを発揮し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲を有している。

学部等名 ビジネス学部ビジネス学科

教 育 研 究 上 の 目 的 (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/purpose/>)

(概要)

ビジネス学部ビジネス学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「ビジネスの場で活用できる知識・技能と必要な教養を身に付け、他者と協働してリーダーシップを発揮できる人材を養成する」ことです。

卒 業 の 認 定 に 関 す る 方 針 (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/purpose/>)

(概要)

ビジネス学部ビジネス学科は、建学の精神「女性の自立と自活」を基本理念として展開される本科の所定の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の学修を通して、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

1. ビジネスの諸課題を多角的に捉えるための幅広い教養を身につけている。
2. 「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」分野の基礎的な知識を身につけている。
3. 「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」のうち特定の分野に関して知識を深めたうえで、課題を発見し、解決することに意欲を持ち、そのための能力を身につけている。
4. ビジネスで必要になる定性・定量情報の分析・マネジメント能力を身につけている。
5. 身につけたビジネスに関する知識・分析力を、他者との協働の中で、発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/purpose/>)

(概要)

ビジネスという広がりの中で「経営」「マーケティング」「経済」「会計」の各分野の基礎的な知識を正しく理解しつつ、一つの分野を中心に深い知識を修得すること、また、グループワークを通じて主体性を伸ばし、協働力を身につけることを目的とし、以下の「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門発展科目」に区分する。

1.「専門基礎科目」は、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の各分野を学ぶ目的や学問体系を理解するため、導入教育の科目として「ビジネス入門」を、また、ビジネス全般で必要となる情報の分析とマネジメント能力の基礎を身につけるための「ビジネスのための定量分析入門」を配置する。さらに、ビジネスという広がりの中で学びの土台を作るため、各分野に入門又は基礎的な科目を配置する。他者と協働しながら課題解決に導くための協働性・コミュニケーション能力やリーダーシップを養うために、ビジネス学部独自の「リーダーシップ開発入門演習Ⅰ、Ⅱ」を配置する。理論的知識を実践事例として関連付け、「ビジネスのための定量分析入門」等で身につけた情報分析マネジメント能力が一段と高められるように工夫するとともに、リーダーシップ授業を含めて、PBL型の授業実施に注力する。各授業科目を通じて基礎的な知識・技能を身につけ、ビジネス社会への関心や意欲を高めることを目的としており、全て必修科目とする。

2.「専門基幹科目」では、「専門基礎科目」で得た知識・技能との繋がりを意識しながら、3年次より主として学びを深めていく分野を選択し、専門性を発展させていく上で基盤となる、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の各分野の基礎的な科目を、また、リーダーシップ能力を一段と磨くために「リーダーシップ開発委基礎演習」を配置する。各「専門基幹科目」において、理論的知識を実践事例と関連付けつつ、一段と高度な情報分析・マネジメント能力が身につけられるように工夫するとともに、情報分析のツールである統計を本格的に学習するため「統計学基礎演習Ⅰ、Ⅱ」を配置する。各授業科目の教育内容に応じて、他者の意見や考え方に触れたり、グループワークの結果を適切に表現したりするなど、ビジネスという広がりの中で、各分野の知識・技能の基礎を固めることを目的としており、すべて必修科目とする。

3.「専門発展科目」は、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の4つの分野に、主として学びを深めていくための専門科目を配置する。専門発展科目では、学生の学修思考・関心・意欲や目指す将来像に応じて、主として学びを深める分野(主専攻)を選択し、当該分野の科目を中心に履修しつつ、適切な履修指導のもと、他の分野の科目も履修することで、包括的な視点に基づく分野横断的な能力と選択した分野における深い知識や応用力を身につける。この科目群においても一段と高度な情報分析・マネジメント能力を専門的に磨くための科目を配置する。高度のリーダーシップ能力を身につけたい学生のために、「ファシリテーション入門演習」「ファシリテーション基礎演習 AB」及び「チームコーチング基礎演習 AB」を配置する。これらの科目の履修を通じて、学生は、様々な組織において構成員のリーダーシップ能力を高める指導能力を獲得する。これまで学修した知識・技能等を活かしつつ、適切な指導により、学生が自ら設定したテーマを研究したり、身につけた協働力を実践的なものとするための「ゼミナール」を配置する。さらに、4年間の集大成として研究成果を論文にまとめ、成果発表までを行う「卒業論文」を配置する。そのため、専門発展科目のうち、「3年ゼミナール」「4年ゼミナール」「卒業論文」は必修科目後、それ以外の科目は選択科目とする。

入学者の受入れに関する方針 (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/purpose/>)

(概要)

ビジネス学部ビジネス学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得をめざし、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

1. 高等学校卒業までの学修内容のうち、「国語」と「英語」を通して、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身につけている。さらに「数学」を通して、論理的・分析的な思考能力を身につけている。また、「社会」を通してビジネスに関する基礎的な知識と興味を持っている。
2. ビジネスにおける物・カネの流れ、意思決定の単位である人・組織の行動、それらの相互作用に興味を持ち、これらに関する情報を的確に収集、分析し、関連する学修課題を主体性を持って最後まで取り組む意欲・能力を有している。
- 3 他者との協働の中でのビジネスの課題を解決するためのコミュニケーション能力を高めていくことに強い意志がある。

学部等名 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

教 育 研 究 上 の 目 的 (https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/ken_design/purpose/)

(概要)

建築・デザイン学部建築・デザイン学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「幅広い教養と建築・デザインの専門に係る知識・技能を身につけ、人が生きていくために必要な場を構成している「空間」や「モノ」などを総合的にとらえ、創造的に提案・実践できる人材を育成する」ことである。

卒 業 の 認 定 に 関 す る 方 針 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/ken_design/purpose/)

(概要)

建築・デザイン学部建築・デザイン学科は、建学の精神「女性の自立と自活」を踏まえて展開される所定の課程を修め、124 単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、人が生きていくために必要な場を豊かに想像し、社会に幅広く貢献できる自立した女性として必要な幅広い教養と美術分野の視点から専門の知識・技能を修得し、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

(1)人が生きていくために必要な生活の場を構成している。「空間」や「モノ」を想像する建築・デザインの領域を、社会との関わりの中で多角的にとらえるための幅広い教養を身につけている。

(2)建築・デザイン領域における基礎的な知識・技能を修得した上一つの領域(建築またはデザイン)に関して知識・技能を身につけている。

(3)「空間」や「モノ」に係るテーマに対して、身につけた知識・技能を活かし手客観的な課題分析を行い、既存の枠にとらわれず創造的に施行し、発想を形にする力を身につけている。

(4)変化する「空間」や「モノ」などの状況に対して、常に意欲的に取り組み、社会との関わりの中でそのあり方について考え、自身の考えを他者がわかるように平易に表現することができる。

(5)「空間」や「モノ」を創造する上で必要不可欠な他者との協働において、身につけた知識・技能を活用し、自ら主体的に活動するとともに、他者を支援するリーダーシップを発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/ken_design/purpose/)

(概要)

建築・デザイン分野における専門性の深さを勘案し、順次性ある体系的な学びとなる教育課程を編成するため、以下のように定める。

●建築・デザインを包括的にとらえるために共通して必要となる知識・技能を修得するための基礎・基盤となる「共通領域」、学年進行に合わせて「建築」「デザイン」の専門性を高めていく「建築領域」「デザイン領域」、研究・制作を行う「ゼミナール・卒業論文・卒業制作」で構成する。1、2 年を建築・デザインの共通理論と各専門領域の基礎理論・基礎技術を学ぶ基盤科目とし 3、4 年各専門の応用理論・応用技術を学ぶ応用発展科目とし階梯性のあるカリキュラムとして構成する。知識を学ぶ講義系科目、具体的にもものに触れて手や身体で技術を学ぶ実技系科目、理論や原理を検証し体感的に学ぶ実験系科目、講義・実技・実験で学んだ知識をテーマに沿って総合化し、建築、インテリア、まちづくり、グラフィック、プロダクトのデザインを提案する演習系科目を体系的に配置する。

●建築・デザインの基礎・基本について事例などに基づき学ぶ「建築・デザイン概論Ⅰ・Ⅱ」と、美術分野共通の基礎となるデッサン力を養う「デザインドローイング」を 1 年次の必修に、自身の考えを他者に対して理解させる方法を学ぶ「プレゼンテーションテクニック」を 2 年次の必修に配置する。さらに、建築コースとデザインコースの学生混合のチームで、専門的な知識・技術を、実際に想定した場面で活用できるよう、課題解決型授業(Project Based Learning 以下 PBL)形式で、建築とデザインを総合的に学ぶ「建築・デザイン総合演習」を 3 年次の必修に配置する。

●建築・デザインの専門分野をより深く理解し学ぶために、「建築領域」に「建築分野」「インテリア分野」「まちづくり分野」を、「デザイン領域」に「グラフィック分野」「プロダクト分野」を設け、主として学びを深めていくための授業科目を配置する。各分野の知識・技術の基礎を固めるとともに、分野における深い知識や応用力を身につけるための授業科目を体系的に配置する。

● 建築・デザインが作り出す「空間」や「モノ」は、デザインする人、それを実際に作る人、そして使う人など多様な人々との協働はとても重要である。3年次に各研究室に所属し各研究室のテーマに沿って学生たちがグループを絡み協働で研究・制作を行う「ゼミナール」を必修として配置する。さらに、卒業年次のアセスメント科目として、専門教育科目を中心とする教育内容を統合・深化させ、専門性を活用する力を身につけるため、4年間の集大成として研究成果・制作作品をまとめ、成果発表までを行う「卒業論文・制作Ⅰ・Ⅱ」を必修とする。

入学者の受入れに関する方針（ http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/ken_design/purpose/）

(概要)

建築・デザイン学科は、建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にする「リーダーシップ」教育と「実学」教育を理解し、積極的に受容する資質・能力を有する人物、かつ建築・デザイン学部建築・デザイン学科のディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などを美術分野の視点から修得するための基盤となる以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。なお、このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。(知識・技能)

(2) 建築・デザインについて学ぶために必要な高等学校卒業相当の「国語」と「英語」「理科」「数学」「地理歴史」の知識があり、入学後の修学に必要な技術を有している。(知識・技能)

(3) 「空間」や「モノ」に対する観察力・描写力と、基礎造形力・基礎表現力を有しているとともに、「空間」や「モノ」に関連した情報を意欲的に収集し、それらに関連した何かを創り出そうとすることに喜びを感じ、考察、表現することに感心を有している。(思考力・判断力・表現力)

(4) 将来的に建築やデザインに興味を持ち、プロジェクトに対してグループのなかでディスカッションとエスキースを繰り返しながら、創作意欲を刺激し合い、目標を達成する意欲・態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲・態度)

(5) 学内・学外の行事に積極的に参加し、プロジェクトを進んで計画遂行し、リーダーシップを発揮しグループの中で活動しようとする意欲・態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲・態度)

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
家政学部	—	36人	13人	1人	4人	27人	81人
文芸学部		25人	9人	2人	人	13人	49人
国際学部		17人	3人	5人	人	9人	34人
看護学部		9人	4人	9人	7人	7人	36人
ビジネス学部	—	8人	6人	4人	1人	3人	22人
建築・デザイン学部		3人	人	人	2人	4人	9人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			480人				480人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://kyonet.kyoritsu-wu.ac.jp/KgResult/japanese/index.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
家政学部被服 学科	90人	94人	104%	360人	393人	109%	0人	5人
家政学部食物 栄養学科	105人	118人	112%	420人	448人	107%	0人	2人
家政学部建 築・デザイン 学科	—	—	—	200人	250人	125%	0人	4人
家政学部児童 学科	150人	139人	93%	600人	594人	99%	0人	0人
文芸学部文芸 学科	350人	349人	99%	1,400人	1,483人	106%	0人	21人
国際学部国際 学科	250人	246人	98%	1,000人	1,074人	107%	0人	4人
看護学部看護 学科	100人	97人	97%	400人	418人	105%	0人	0人
ビジネス学部 ビジネス学科	150人	157人	105%	600人	675人	113%	0人	1人
建築・デザイ ン学部 建築・デ ザイン学科	100人	112人	112%	200人	219人	110%	0人	0人
計	1,295人	1,312人	101%	5,180人	5,554人	107%	0人	37人

(備考)

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
家政学部	446人 (100%)	5人 (1.1%)	424人 (95.1%)	17人 (3.8%)
文芸学部	429人 (100%)	9人 (2.1%)	389人 (90.7%)	31人 (7.2%)
国際学部	261人 (100%)	2人 (0.8%)	235人 (90.0%)	24人 (9.2%)
看護学部	89人 (100%)	4人 (4.5%)	81人 (91.0%)	4人 (4.5%)
ビジネス学部	142人 (100%)	0人 (0.0%)	139人 (97.9%)	3人 (2.1%)
合計	1367人	合計	1367人	合計
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 鹿島建設株式会社、株式会社千葉銀行、東洋建設株式会社、東レ株式会社、農中ビジネスサポート株式会社、三井住友トラスト・ビジネスサービス株式会社 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)【様式第2号の3より再掲】
 全授業科目について、シラバスを作成し、公表している。シラバスには、「科目概要」「到達目標」「単位修得目標」「授業形態」「授業方法」「授業の進め方の概要」「各回の授業内容」「事前・事後学修」「成績評価の基準」「評価の方法と配分」「テキスト」「参考文献・参考 Web サイト等」「課題図書」「履修者へのメッセージ」を記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

【概要】様式第2号の3より再掲】
 授業計画(シラバス)策定時、①試験、②レポート、③(授業内)小テスト、レポート、④平常点(学習意欲、履修態度等)、⑤その他の評価方法を適切に用いて成績評価を行うよう計画をしている。また、成績評価実施時は、当該授業科目の到達目標に照らし、評価基準を以下のように定め、厳正な成績評価を実施している。

(成績評価)	(素点)	(内容)
S	90~100点	到達目標を超えたレベルを達成している
A	80~89点	到達目標を達成している
B	70~79点	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している
C	60~69点	単位修得目標を達成している
D	59点以下	単位修得目標を達成できていない

※到達目標:当該授業科目が目指す学修成果のレベル
 単位修得目標:当該授業科目で最低限修得すべき学修成果のレベル
 $(\text{科目の成績評点(GP)} \times \text{単位数}) + \dots + (\text{科目の成績評点(GP)} \times \text{単位数}) \div \text{登録科目の総単位数}$
 (評価 D・X の単位数も含む)

卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、公表している。各学部において、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムチェックを実施し、各授業科目の到達目標を定めている。各授業科目においては、到達目標の達成水準を基準に成績評価を行っている。したがって、各授業科目における成績評価を適切に行うことで、適正な単位の認定が行われ、卒業要件単位を満たすことにより、ディプロマ・ポリシーの要件を満たすことを保証している。

【履修ガイド 2024 : 掲載 P195・P196】

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
家政学部	被服学科	124 単位	有・無	単位
	食物栄養学科	124 単位	有・無	単位
	建築・デザイン学科	124 単位	有・無	単位
	児童学科	124 単位	有・無	単位
文芸学部	文芸学科	124 単位	有・無	単位
国際学部	国際学科	124 単位	有・無	単位
看護学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
ビジネス学部	ビジネス学科	124 単位	有・無	単位
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/disclosure/campus-info/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
家政学部	被服学科 建築・デザイン学科 児童学科	760,000 円	150,000 円	450,000 円	施設設備維持費 390,000 円 実験実習料 60,000 円
	食物栄養 学科 食物学専攻	780,000 円	150,000 円	450,000 円	施設設備維持費 390,000 円 実験実習料 60,000 円
	食物栄養 学科 管理栄養士専攻	780,000 円	150,000 円	460,000 円	施設設備維持費 390,000 円 実験実習料 70,000 円
文芸学部	文芸学科	680,000 円	150,000 円	390,000 円	施設設備維持費 390,000 円
国際学部	国際学科	720,000 円	150,000 円	390,000 円	施設設備維持費 390,000 円
看護学部	看護学科	1,230,000 円	150,000 円	470,000 円	施設設備維持費 390,000 円 実験実習料 80,000 円
ビジネス 学部	ビジネス 学科	750,000 円	150,000 円	390,000 円	施設設備維持費 390,000 円
建築・デ ザイン学 部	建築・デ ザイン学 科	800,000 円	150,000 円	450,000 円	施設設備維持費 390,000 円 実験実習料 60,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 担任制度により年度始めに全員面談を実施している。 教務課で年 4 回出席状況を集計し、欠席率が低い(67%未満)学生の情報を学部へ連絡、担任が面談した記録をシステムに記録、記録内容は教職員で共有している。 GPA の低い学生について、年度末に保証人に通知し、学部では履修指導を行う。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 個別相談やキャリアガイダンス/プログラムの実施、インターンシップ支援、各種資料の公開等を行い、学生個々の進路選択を支援している。また、転学部・転学科・転専攻の制度も設け進路変更への支援も行う。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生相談室では、学生生活に関する相談に応じ、必要に応じて関係部署と連携を図っている。「学生相談室だより」などで心の成長や健康に関する情報を発信している。教職員対象の研修会を開催し、学生への支援方法を習得する機会としている。 保健室では、毎年健康診断時に全学生との問診を実施し、健康状態と修学支援の確認をしている。また結果を元に学校医との面談を実施している。年に 3~4 回「保健室だより」を発信し、健康や感染症の予防と対応について情報提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310102975
学校名 (〇〇大学 等)	共立女子大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人共立女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		366人	352人	-
内訳	第Ⅰ区分	199人	195人	
	第Ⅱ区分	94人	97人	
	第Ⅲ区分	73人	60人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				396人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	-		
計	20人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	37人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	32人		
計	53人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。